

令和6年度 第1回神栖市総合教育会議議事録

1 日 時 令和7年1月15日（水曜日）午後1時30分～

2 場 所 神栖市役所3階 庁議室

3 出席者 石田 進 市長
木之内 英一 教育長
本間 敏夫 教育委員
井口 久恵 教育委員
鈴木 伸洋 教育委員

事務局職員

教育部長
秘書課長
教育総務課長
教育指導課長
教育指導課長補佐
指導主事
学務課長
学務課長補佐
担当職員（3名）

4 欠席者 井上 剛 教育委員

5 傍聴者 なし

開 会 13:30

○教育総務課長

それでは定刻となりましたので、総合教育会議を開催したいと思います。
神栖市総合教育会議設置要項第4条により、市長が議長となりますので、会議の
進行をお願いしたいと思います。それでは市長よろしく願いいたします。

○市長

それでは、ただいまから、令和6年度第1回神栖市総合教育会議を開催いたします。

本日の議題は、総合教育会議では初めての案件でございます「神栖市立学校二学期制について」でございます。

既に校長会で調査を実施したものがあつたとのことで、それらの資料・情報を基に、担当課の方で、昨年9月から他市の実態把握や保護者等へのアンケート調査を実施するなど、準備を進めてきたと聞いております。

また、教育委員の皆さまにおかれましては、教育委員会議や検討委員会において、多辺田委員長を中心に活発な議論があつたことも聞いております。

本日は、委員の皆様のご知識と経験による率直なご意見をよろしくお願いいたします。

では、まず初めに、事務局から、二学期制の導入について、説明をお願いします。

○教育指導課長

二学期制の導入について、全国・県内における導入状況、メリット・デメリット、保護者・教職員の意識調査結果、検討委員会のスケジュール等を資料をもとに説明する。

○市長

ただいま事務局より説明がありましたが、二学期制の導入について、ご意見・ご質問等がございましたら、お願いいたします。

○市長

保護者の意識調査と教職員の意識調査では、だいぶ差が出ているように思います。学習効果や生活リズムのところ、どちらでもいいという保護者が5割以上もいらっしゃる、まだ保護者の認識が至ってないのではないかと思います。先生方は、認識があり、二学期制がいいという意見の方が多く、その辺りの差は説明で埋まるものなのか教えていただきたいです。というのは、メリットを伝えても実際やってみなければわからないと思います。やってみたら、やはり三学期制の方が良かった、二学期制になって良かったと分かると思いますが、今はイメージで話さなければいけないので、保護者の方に説明して、再調査してもどのくらい分かる方がいるのか

心配しているところであります。その辺りを教えていただきたいです。

○教育指導課長

今回の会議でいただいたご意見を提示した上で、二学期制導入の是非について保護者の方の考えが整理されればと考えています。他市の保護者の調査結果では先生方がやりやすければという意見が多かったようです。

○市長

先生方の見方は、二学期制導入に賛同しているようですが、それはどういった理由からでしょうか。

○教育指導課長

他市で二学期制を経験された先生方からは好評な意見が多いと伺っています。学校が必要としている始業式や終業式などで10時間程度減り、通知表も2回になることから、メリットを感じているようです。

○市長

分かりました。では、皆様から二学期制の導入について、ご意見がありましたらお願いいたします。

○教育委員

先程の説明ですと、今回は保護者にメリット・デメリットを説明せずに調査をしたと伺ったので、きっと、どちらでも良いという割合が多かったのではないかと思います。保護者は、二学期制、三学期制どちらがよいかなど感じていないと思うので市としての方針を示し、調査を行えばどちらでも良いという回答は減ると思います。

○教育指導課長

試験的に行うことができないものなので、いろいろとご意見をいただき、しっかりと検討していきたいと思えます。

○教育委員

二学期制が導入されれば、親としては、それに伴い対応すると思えますし、子どもは、すぐに慣れると思えます。実際に二学期制を導入している学校に勤務する先生に聞いたところ、圧倒的に二学期制の方が負担が少ないと話していました。教員

不足と言われている時代においては、人材確保のためには、負担が少ない方がいいと思います。

○教育委員

どちらでもいいという保護者が5割ということは、実態が分かっていないのだと思います。教職員の方から見ると、例えば二学期制にした場合、夏休みの休業中に通知表の下書きができ、更にその後に追加することもできます。学校行事は、7月と12月は入れづらい状況ではありますが、二学期制になると教育計画が立てやすくなるというメリットがあり、教職員は二学期制導入に賛成なのではないかと思います。私が教職員だったら、二学期制に手を挙げると思います。

二学期制導入に慎重な立場の保護者は、学期末の区切りとして、通知表が見たいという思いがあり、今までは夏休み前、冬休み前に成績等を確認できましたが、確認せずに休みに入る事への不安があるのではないかと推測します。

○市長

通知表は、どのようになるのでしょうか。

○教育指導課長

前期と後期という形で10月上旬に1回、3月末に1回になります。市内の現状としまして、通知表の所見は一学期に記述していない学校がほとんどで、教職員の軽減が図られています。二学期に関しては、1校しか記述していませんが、その分、保護者面談の時間を確保し、書面で伝えきれないものに対し、対面での時間を取りたいという学校側の思いがあると考えています。

○市長

保護者、児童、生徒の視点での質問になります。例えば、二学期制になったとして、休みの使い方として、夏休みの前に目標を定めるために通知表を確認することは大事だと思います。学校でその代わりとなるようなことは考えているのでしょうか。特に中学3年生の受験期においては、夏休み明けにテストを行うなどの計画はありますか。

○教育指導課長

夏休み中にほとんどの学校が保護者と二者面談を実施しています。面談を行わない学校は、授業参観を行い、その後に保護者会を行って対応しています。

○市長

二学期制導入に異論はありませんが、何かこういう形で心配事をクリアしたらいいのではないかという意見がありましたら、お願いしたいです。

○教育委員

親としては、子どもの学校の生活状況を知る機会が減ってしまうことを心配しているものと思います。

○教育指導課長

面談が少ない学校でも年間1回は、必ず行っています。

○教育委員

成績をつける時間と面談を行う時間は、どちらが時間を要しますか。

○教育指導課長

文章を書くことが苦手な教員もおりますので、一概には言えません。

○教育委員

学校訪問時の先生方の話によると、残業時間が多いと聞くので、やはり大変なんだと思います。負担軽減ができるなら、面談を年に一人2回やるなどして、成績の進捗状況は前期・後期のテストなどで確認してもいいと思います。

○教育指導課長

保護者とのすれ違いで業務が増えてしまうこともあるので、保護者と話をする機会は、貴重だと思います。学校の先生は、子ども達と向き合う時間はだいぶ確保していると思います。ただ、忙しい中で確保しているので、より子ども達に寄り添うには、ゆとりのある中で時間を確保できた方がいいのではないかと思います。

○市長

ありがとうございました。他にはどうでしょうか。

○教育委員

二学期制にするメリットを打ち出すには、学習効果があることや子ども達と触れ合う時間や指導する時間が確保できるなどのメリットを全面に出していけばいいと思います。それによって、教師の仕事の軽減になるということもありますが、メ

インは子どもが中心であるということをしっかり伝えるべきだと思います。

小学校は、学期末になると成績処理期間があり、1週間位半日授業になり、面談期間も同じく1週間位半日になります。その時間は、結構なものになるので、二学期制となれば回数も少なくなると思います。そうすると子どもと関わる時間も増えるので、その辺も表に出して説明していけば、どちらでもいいという保護者は納得すると思います。

○市長

ありがとうございます。その通りだと思います。

○教育委員

やってみないとわからないですね。世の中の流れがそのようになっているということは、教師の発想だということは間違いなと思います。子どもの教育をどうするかということも大切なんですけど、教師がゆとりをもって子どもと接する時間を作ってあげることが大切だと思います。最終的には、教師一人一人の資質・能力が大きくなるのですが、どの教師に対してもある程度、子どもをしっかり見て、触れ合う時間を制度の中で作っていくことが大事になってくるのではないかと思います。今、教員のなり手が少なく、なつてからも学校に行けない、あるいは辞めてしまうという事実も発生しています。もっと教員にプラスになるようなことが大事になってくるのではないかと思います。

○市長

ありがとうございました。

○教育委員

優秀な人材を確保するために、負担軽減をしていくことはいいことだと思います。全然、問題ないと思います。内定を出したが、辞退しますといったことが全国で多発しているので、人材を確保するには、二学期制の導入はとても重要だと思います。

○市長

ありがとうございました。一方では、児童・生徒を見据えた上で、一方では教職員の働き方改革という観点のお話をいただきました。先生は、もっと胸を張って、誇りをもってできる素晴らしい仕事だと思います。

○教育長

何を大事に考えるかでメリットがデメリット、デメリットがメリットになると思うんですね。事務局から、二学期制になることにより、授業時数が確保できるという話が出ていましたが、国は授業時数を増やさないような通達を出しています。授業も5分短縮し、50分から45分にしても良いといわれています。ここで、教育委員会が授業時数を増やしたいというのでは、また、方向性が違ってきてしまいます。市長が先程、子ども達が夏休みに勉強をしなくなってしまうのではないかと、心配していましたが、現在、市が進めているキャリア教育を例に挙げますと、学校側としては、いろいろなことを提供しますが、自分のやりたいことを伸び伸びとやってもらいたい反面、学校なので、最低限の質の保証はすべきと考えます。

保護者の皆さんが「先生が楽しいためにやってるだろう」と言われたら、今の時代は、「はい、そうです」と言っているのではないかと思います。先生が楽になれば、先生が笑顔で健全な状態で子ども達の前に出て授業ができますよ、指導ができますよと言えます。しかし、それは学校側からは言いつらいと思いますので、行政側が保護者の方からの批判を受け、「でも、お子さんにとっては、こんなにいいことがありますよ」と言ってあげるべきだと思います。

行政では、学期を決めることはできますが、中身については、学校側の運用の中で子ども達の実態を見て計画していくものだと思います。市の方針とメリットをきちんとお知らせできれば、やっていけると思います。

○市長

それぞれ、大切なお話をいただきました。ぜひとも、この後、会議の意見を参考にさせていただきまして、この後進めていただきたいと思います。説明不足にならないように、しっかりお願いしたいです。

いろいろなご意見をいただきまして、ありがとうございました。よりよい方向に向かっていきますように、みなさんのお力でよろしく願いいたします。

以上で令和6年度 第1回 総合教育会議を閉会いたします。本日は、お忙しい中、ありがとうございました。

閉 会 14 : 30